

〈執筆者とその「デューラーまたはデューラー受容関係の主な業績〉

佐藤 直樹（東京藝術大学大学院准教授）

「デューラーと犀・写実とエンブレムの間」『国立西洋美術館研究紀要』三、一九九九、二一一三三〔頁〕

『岸田劉生におけるデューラーの受容——複製画を通して見

た西洋古典絵画』、『交差するまなざし ヨーロッパと近代日本

の美術』東京国立近代美術館、一九九六、九八一〇五〔頁〕

『アルブレヒト・デューラー版画・素描展——宗教・肖像・自然——』国立西洋美術館、二〇一〇一一

下村 耕史（九州産業大学教授）

『アルブレヒト・デューラーの芸術』中央公論美術出版、一九九七

『アルブレヒト・デューラー「人体均衡論四書」注解』『同

「絵画論」注解』『同「測定法教則」注解』中央公論美術出版、一九九五、二〇〇一、二〇〇八

平川 佳世（京都大学大学院准教授）

The Picualization of Dürer's Drawings in Northern Europe in the Sixteenth and Seventeenth Centuries, Bern, 2009

秋山 聰（東京大学大学院准教授）

『デューラーと名声 芸術家のイメージ形成』中央公論美術出版、二〇〇一

『アルブレヒト・デューラー版画・素描展——宗教・肖像・自然——』承前

大原 まゆみ（明治学院大学教授）

「デューラー祭・一八二八年」前川誠郎先生記念論集刊行会編『美の司祭と巫女——西洋美術史論叢——』中央公論美術出版、一九九一、二七五一三〇五〔頁〕

『ドイツの国民記念碑一八一三年一一九一三年 解放戦争からドイツ帝国の終焉まで』東信堂、二〇〇三

尾関 幸（東京学芸大学准教授）

『ナザレ派と美術アカデミー』『国立西洋美術館研究紀要』8、二〇〇四、二九一五〇〔頁〕

新藤 淳（国立西洋美術館研究員）

『アルブレヒト・デューラー版画・素描展——宗教・肖像・自然——』承前

田中 淳（東京文化財研究所企画情報部長）

『画家がいる「場所」 近代日本美術の基層から』ブリュッケ、二〇〇五

勝 國興（同志社大学名誉教授）

『西洋美術史論考——北方ヨーロッパの美術——』中央公論美術出版、二〇〇六